



「森をはぐくむために」

『森をはぐくむために』

日本は、自然に森ができる恵まれた国。植えた後、手入れをしなくても、なんとなく森になっていく。それはそれは暗い森で、もやしのような樹が林立している森だけ

ども。そんな、とかく目的や目標が見失われがちな山づくりに、保残木マーク法。植えた樹が六十歳の時に、何本をどのような間隔で残すか。

地位指数や相対幹距比から間隔と本数を捉え、残す樹を選び、その成長を阻害する樹を伐る。形質は悪いけれど残す樹の邪魔をしない樹は伐らなくてもかまわない。フアジーな部分もこの方法の特徴です。鬱蒼とした二十七歳のヒノキ林で、プロット当たり七本

の保残木を決め、その支障木の伐倒。上層に点在するようになった梢、その梢と梢の間から差し込む陽。見違えるように明るくなった林分。暑く狭い林分で、かかり木の処理などの間伐作業、お疲れ様でした。間伐という処方。その処方箋の一つに保残木マーク法を、伐倒の実践技術にかかり木の処理をプラスして。今回の講座が、皆さんが幾重にも積み重ねていく山造りの技の一つとなれば幸いです。



受け口方向 確認!



沈み込んでゆく...



ゆっくりと、丁寧に



ヤスリの大きさ、目立ての角度

通年コース第七・八回

7月15・16日(金・土) 間伐

15日(金) 8時30分

鳥崎先生の山小屋に集合。事務局の挨拶のあと、さっそく鳥崎先生の講義。林業や森林の現況についてや地位指数、相対幹距比、林分形状比の説明。釣竿を使った円形プロットによる調査方法から様々な間伐法の講義を受ける。 9時40分 日程説明、班分け。休憩後、現場へ向かう準備をする。 10時 分乗して、伊那市新山の間伐現場へ向かう。 10時40分 各班毎にプロット調査開始。今回は10m x 10mの

12時10分

現場にて昼食。 13時10分 現場にて、鳥崎先生の「保残木」講義。各班のデータを平均してみると、ヘクタール当たり2000本・林齢27・上層樹高15m。主伐を60年生時とすると、上層樹高が23mと予測できるので、その時の相対幹距比を17%に設定すると、プロット内では7本を保残木としてマークする。この保残木の成長に支障がある木を伐倒する。 13時50分 各班、形質のよい保残木をマーキング。 14時15分 伐倒開始。密度の高いヒ



傾け！傾け！！

ノキ林。かかり木の処理に、ひと工夫。

15時40分

現場終了。お疲れ様でした。

16時15分

小屋着後、暑気払い準備。酒類や一品料理など、いろいろな差し入れをありがとございました。

18時20分

暑気払い。パーベキューにビール。酔の物と日本酒。くつろぎの時間。そして、ハーモニカの調べとともに夜は更けていくのでした。

16日(土) 8時40分

島崎先生の山小屋に集合。先生の挨拶、日程説明など。

9時5分
分乘して現場へ向かう。

9時40分

着後、機材を準備して、早速、伐倒開始。昨日より各班の距離が近くなっている。伐倒はより慎重に。チルホールやロープ、フェリンググレバーを使った伐倒を休憩を挟みながら。この間、島崎先生が刈払機で、林縁の下草を刈ってくれました。

12時

今日も現場で昼食。

13時

伐倒再開。途中、イントラ藤原が「スガレ」の巣を踏み抜き、手と足を刺されるアクシデント。

14時10分

伐倒を終了し、メンテナンス。今回は主に目立て。

このチェーンソーには、4ミリの丸ヤスリ。上刃目立て角度は30度。

15時30分

機材を片付けて、小屋へ。

16時10分

島崎先生総括。鬱蒼としていた林分が、間伐で見違えるように明るくなりました。ありがとうございました。

16時30分

終了、解散。

参加者/遠藤さん、熊木さん、栗栖さん、小林さん、下崎さん夫妻、中神さん、松岡さん、角田さん、太田さん、長坂さん
講師/島崎先生、早川講師
スタッフ/川島、坂野



次回以降の予定

集中コース夏の部

8月4日(木)
8月6日(土)

お待たせしました、ぎゅっと、ぎゅっしり三日間の集中コースです。測樹などの調査からチェーンソーを使った伐木造材や簡単な集材を行います。七名の方が参加予定です。

第九・十回

8月26・27日(金・土) 伐出

伐って出し。伐るは間伐。出すは：ウインチで、林内作業車で、材を寄せ、集め、運ぶ。8時30分、島崎先生の



ロープ準備完了、追い口伐ります

山小屋に集合。マイ装備・マイ道具、ご持参下さい。

なお27日(土)は、鳩吹公園で「まほら伊那 地球元気村」というイベントが開催されますので、一番下の駐車場をご利用願います。

第十一回

9月16日(金) 見学

丸太は、その後、どこへいくのか・・・泉森連の木材市場

場や建具店さんの見学を予定しています。

8時30分、島崎先生の山小屋に集合です。

第十二回

9月17日(土) 枝打ち

特別講師の保科先生による枝打ち。自作のぶり縄で木登りし、枝を打つ。
8時30分、島崎先生の山小屋に集合です。

専門コース第二回開催報告 『雨の日にはアイをつくって』

次々と発生する低気圧。歪な曲線を描く梅雨前線。長野県北部や中部では大雨警報が発令される中、開催初日を迎えた専門コース第二回目。伊那でも初日の午前中と二日目は雨となりました。ロープで、ワイヤーで、雨の日にはアイをつくって。晴れた日には伐倒をして。
アイ加工には、籠差しと巻差しがありますが、ロープは籠差しで、ワイヤーは両方やってみました。どちらもまず口差しが肝心です。巻差しは加工が比較的簡単ですが、垂直荷重がかかると撻りが戻る方向に回転して加工部分が抜ける可能性がある。ロープは籠差しに、ワイヤーは用途によって使い分



ロープは、籠差しで

専門コース第二回開催
6月30日(木)
7月2日(土)

一日目

8時30分

島崎先生の山小屋に集合。あいにくの雨なので、ワイヤーのアイ加工となる。

8時40分

早川講師から、ワイヤーの構造やアイ加工の要領、口差しの説明を受ける。

8時55分

口差しをやってみて、さらに心線を本線へ挿入。

9時25分

早川講師から、巻差し・籠差しの説明を受ける。どちらでも口差しは共通です。

9時40分

巻差しの加工。口差しをしないフレミッシュ加工もやってみました。

12時10分

昼食。雨は止んでいる。

13時15分

いざ、現場へ。伐倒開始。

16時10分

小屋へ戻り、チェーンソーの調整、スタータロープ交換。

17時10分

終了、解散。

二日目

8時30分

島崎先生の山小屋に集合。昨日よりも激しい雨。

8時35分

まずはロープのアイ加工。続いて、ワイヤーの籠差し。黙々と何回も...

12時15分

昼食。

13時15分

井伊さんは籠差しを、田村さんは口差しを、繰り返し返



傾斜の上からの造材

し練習。

16時30分

掃除をして終了、解散。

三日目

8時30分

島崎先生の山小屋に集合。今日は晴れ。しかし、アイ加工の習得を目指す二人は...。もう少しアイ加工。

10時40分

伐倒開始。根元の直径が太いアカマツの伐倒に挑戦。特に追い口伐り位置と退避路の確保を熟慮して。

12時15分

昼食。田村料理長の煮込みうどんを頂きました。ごちそうさまでした。

13時30分

伐倒再開。等高線方向への伐倒にも挑戦。枝払いと玉切りには十分注意です。

16時30分

終了、解散。

参加者/井伊さん、田村さん

講師/早川講師

スタッフ/坂野

スタツフ/坂野

やま・もり 豆知識

「間伐に関するデータ」
平成十六年度 森林・林業白書より

四月に林野庁から「平成十六年度 森林・林業白書」が出版されています。この中の参考付表は日本の林業の現状をよく伝える数字が並んでいます。できれば一冊購入してじっくり目を通してみませんか。今回はその中で間伐に関するデータを抜き出してご紹介します。

人工林の齢級別面積 (平成13年 単位:千ha)

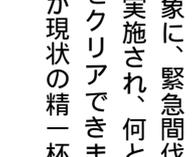
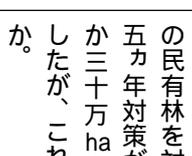
| 齢級 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12~ |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|------|-----|-----|-----|
| 面積 | 131 | 226 | 350 | 589 | 874 | 1149 | 1599 | 1677 | 1522 | 946 | 353 | 904 |

間伐面積 (単位:千ha)

| 年度 | 2 | 7 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 面積 | 277 | 215 | 237 | 304 | 302 | 314 | 312 |

間伐材の利用 (単位:万m3)

| 年度 | 2 | 7 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 材積 | 234 | 183 | 212 | 274 | 277 | 279 | 283 |



人工林の齢級別面積

年齢とは、植栽から五年までを一齢級、六〜十年を二齢級、十一〜十五年を三齢級など五年ごとに括ったもので、少なくとも十齢級(五十年)程度までは間伐の必要があります。間伐の開始は五齢級くらいから考えると、日本の人工林一千万haのうち、八百万ha弱が間伐必要林ということが出来ます。間伐の間隔は十年程度ですので、一年間に八十万haづつこなしていけば間に合う勘定です。

間伐面積

実際の間伐実績は二十万〜三十万haくらいです。特に平成十二年から百五十万haの民有林を対象に、緊急間伐五カ年対策が実施され、何とか三十万haをクリアできましたが、これが現状の精一杯か。

間伐材の利用

1haを間伐すれば、最低三十〜四十分立方メートルの間伐材が出るはずですが、恐らく利用されている間伐材は十〜二十%程度のもので

リレー通信

バイクと白衣とチェーンソー

栗栖 かが梨



いくら思い出そうとしても、何時の季節だったのか思い出せない。当時、私は広島に住んでいた。ニヤンコ(友人の愛称)と東急ハンスを歩いていた時の事だった。何を言うという事もなく、ブラブラしていたのだと思う。私が足を止めて見ていた物を、怪訝な表情で見上げたニヤンコは「そんなもの...どうするの?」と、聞いた。私は「しどろもどろになりながら、林道ツーリングの時に...倒木があつたりしたら...」などと訳の判らない返事をしていた。私より十歳年下のニヤンコは、こうした時に突然母親に変身するのである。値段・使用頻度・大きさを瞬時に計算したのか、訳の判らない子供に言い含めるようにこう言った。「そんな大きな斧を積んで何処に行くの? 今まで使う事あった? 無かったのなら必要



ないから行くよ」と。私は一段高い所に飾ってあるかなりの大きさの斧に気を取られ、足を止めていたのだ。

中国山地のほぼ中央(瀬戸内海にも日本海にも四時間前後かかる)で育った私は、山や木が周りにあるのが、当然といった子供時代だった。学校に通う往復8kmの道程はトライアル選手でも、国内上位ランクでないとかクリア出来ないような山道だった。上級生から語り伝えられた、様々な宝物・・・、それは、山百合であったり蕨の採れる場所であったり、あけびや桑の実であったり。そして、新緑・紅葉で有名な国定公園の中を通学していると、何故か周りの樹に名札がついていたりするのである。

なサービスというか・・・？ 未だ何だったのか不明(そういう物を、何となく見ながら育った子供時代だった。

二年前、伊那に越して来た。その前に「森林塾通信」に前々出の遠藤さんが茅野に越して来ておられた。昨夏、遠藤さんが薪を作る為、伊那に来られたのでついて行ってみた。あの、小型のチェーンソーを見せて貰った時から、実は使ってみたくてしょうがなかったのである。子供の頃から身近にあったチェーンソーだったが、父には触らせて貰った事がなかった。実際、あのチェーンソーを見たら、父が使っていた物より随分小さく思え、私でも使えそうな気がしたのである。多分、遠藤さんの横で私はずっと(うちの猫が来客に美味しい物をねだると、多分同じ顔で。うちの猫はかなり押しが強い。こんな処まで私に似たのか?)、何時、使わせてやるって言うてくれるの?という顔をしていたに違いない。内心、「森林塾に参加しただけで、チェーンソーを近くで見た事もない遠藤さんが使えんだから・・・、きっと私にも使えるに違いない」と思い込んだのである。判り易い性格の私だし、私の迫力に圧倒されたのか、ついに言って貰えた時に・・・思わず頷いたのは言うまでもない。そして、怖々使ったのだが面白かったのである。林業に従事している方からすると、実は噴飯物なのだろうが、楽しかったのである。あの大きな樹をチェーンソーで切つてゆくのは、実はストレスの解消になったりするのかもしれない。もともとバイク乗りで、エンジンがついた物にはどうも惹かれるようにDNAが出来ているらしい。これで、立ち木を倒せたら・・・どんな気分なんだろう? そんな思いがよぎった。この経験が、迷わず森林塾に参加を決めさせた。「実家の山をしなくては・・・。」

「実家が薪が必要だし・・・。」なんてのはもっともらしく後から付けた理由で、チェーンソーに魅せられた、と言うのが正しい。きっと、『エンジン』と『切れ物』が好きなのである。そう気付いた時に、ニヤンコとの会話を思い出したのである。「今度はニヤンコも、きっと購入を許してくれるだろうな。」等と思ったりもする。しかし、実際に参加した森林塾は、日頃の運動不足がたたってか、体力的にはかなりきつかった。こんな仕事を毎日こなして、

父は私達家族を養って来たのかと思ったら、不覚にも涙が出てしまった。先月、看護学校時代の友人から、電話がかかってきた。「かお梨、どうしよつと?」なんて長野におるとね?」と、関西訛りの九州弁で話した彼女が、次にこう言った。「かお梨、今でも昔みたいにきれいに化粧しとるとね?」と。そのまま何処の店のホステスでも勤まるくらい派手な化粧の私しか知らない彼女が、この夏、信州に遊びに来るといふ。白衣より作業着と地下足袋の方が似合うように思った私を見て、彼女がどう言うか楽しみである。



コラム

七月に入ってから、あまり天候が安定せず、じめじめと蒸し暑かったり、夜は窓を開けていると、肌寒い日も有ったりして、布団を蹴飛ばして寝ていると、お腹が冷えてしまいうすです。もうそろそろ梅雨は明けられるでしょうか?この森林塾通信がお手元に届く頃には夏本番かもしれませんね。

七夕の夜、天の川は見えるだろうか?と外に出てみると、ちよつと雲が切れ、天の川だけがくっきりと見えました。びつくりする程たくさん星が輝き、どれがひこ星でどれがおり姫なのか判らないくらいでした。寝転んで天の川を眺めるといふ極上の幸福を味わう事ができました。これも綺麗な空気を作ってくれる植物のおかげなんだな」と、そんなことをしみじみ考えながら、星を眺めた今年の七夕でした。

あじさい達も、もう盛りを過ぎ、夏の山には今ゆり科の「ぎぼつし」が咲き始める頃ですね。私はこの花がとても好きです。細い茎の先に薄紫の花をつけ、木陰にひっそり咲いている姿ははかなげです。どんな植物もそうですが、その花たちの咲く限られた季節に、色や香り、形に工夫をこらし誰に誉められるためでもなく咲いている姿を見ると胸がつまります。こういう気持ちはこちら側からのもので、花たちにはそんなつもりはないんでしょうが。でももしかすると、言葉や音を発しないだけで、本当は植物にも心や意思があるのかもしれないって、私は思うのですがみなさんはどう思っていますか?

お知らせ

KOA森林塾の十年を、世にも奇特な人々の、まっすぐで熱い想いを中心にまとめた書籍が発刊の運びとなりました。詳しくは左記までお問い合わせ願います。

「おい、山へ行こうよ」 KOA森林塾十年 発行所 伊那毎日新聞社 TEL 0265-72-4101 FAX 0265-77-1950 定価 1,800円

おわりに

一年中で最も暑い日の「大暑」の頃となりました。梅雨もあけた模様、だそうで、これから「秋立つ」までの夏の土用の時は、酷暑となります。皆様、体調を崩されませぬよう、ご自愛下さい。

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。

TEL 0265-70-7065 FAX 0265-70-7994 E-mail: sh-sakano@koanet.co.jp ki-hayakawa@koanet.co.jp 携帯:090-4463-0062 (開催日) URL http://www.koanet.co.jp

